

税理士の ひとりごと

No. 142

不治の貧乏性

税理士 齋藤明

今からかれこれ9年前、たまたま祇園で食事をしている時に隣にいたロシア人に「京都ではどこが印象に残った？」と聞いてみたところ、「龍安寺が最高だった」と言うので、翌日予定がフリーだった私は龍安寺に行ってみることにしたので。

龍安寺といえば、石が不規則に配置された石庭が有名で、その石庭を臨む縁側に様々な国からやってきた外国人観光客がズラッと一列に陣取り、「ウーン！ ニホンノブンカ、スバラシイデスネ」とばかりに長時間ジッと石庭を眺めているのです。しかし、正直私にはその石庭がそれほど心に響く造形であるとは感じられず、そそくさとそこを離れ、出口へ向かうべく順路に従い寺の裏手へと向かったのですが、思いがけずその裏庭にあった蹲踞（つくばい）の前で私はフリーズしてしまいました。

水戸光圀公が寺に寄進したというそ

の蹲踞には、真ん中の四角形の空洞を「口」という漢字に見立てて、「吾唯足知」という文字が刻まれています。吾唯足知、というのは、お釈迦様の遺言のお経に書かれた言葉で、「足るを知らざるものは富めりといえども貧し、足るを知るものは貧しといえども富めり」という意味で、もっと多くのお金を稼ぐことと、税金をいかに少なくするのかみたいなことばかり言っている税理士業界とその周辺に少々辟易していた私にとって、それは妙に心に刺さる一言だったので。

そんな私も、薄給の会計事務所職員時代には「お金を稼いだら、ポルシェを買って、海外旅行はビジネスクラスで行って、焼肉は叙々苑で特上コースを思い切り食べてやろう」なんてことを本気で考えていたのです。それなのに、ある程度稼げるようになって実際にポルシェをえるようになってみると、「ポルシェじゃサーフィンにも行け



ないしなあ」とか言って絶対に買わないし、「たかが数時間のフライトくらいで、狭いだの何だのと四の五の言って高い料金を払って広い席に座るなんてカッコ悪いじゃん」とか言ってエコノミークラスで満足しちゃっている。きっと私は生来の貧乏性で、元々贅沢などできない性分なのでしょう。

ところが最近流行りの『DIE WITH ZERO』という本を読んでもみすと「死ぬときまでに貯金ゼロにする」というようなことが書いてあります。いくらお金を持っていても墓場までお金を持って行くことはできないのだから、死ぬまでに全部使ってしまうというその考えには大いに共感するところではあるのですが、生来の貧乏性である私にはそれができない。いったい私のような者にとってのお金の使い方、最適解というのはいったどこにあるというのでしょうか？

先日、友人とキャンピングカーで四

国を旅している時に私は猛烈に暇だったものですから、車窓を流れる景色を見ながらそんなことをツラツラと考えていました。そこで私の導き出した答えというのは、自分にとっての豊かさというものを金銭的な尺度で計るのでなく、精神的な満足度という尺度で計って決めればよいではないか、というもの。「ああ、俺はなんてスバラシイ答えを見つけてしまったのだろうか」とその時にはご満悦だったのですが、いざ今度の夏にロサンゼルスにドジャースの試合を観に行こうとなった時にビジネスクラスで行こうか、エコノミークラスで行こうか、また悩み始めてしまったのです。

過去の経験からして、北米に行くとき100%時差ボケにかかります。結構タイトな日程でサンディエゴとロサンゼルス周るので万全の体調で渡米したい。フライト時間は10時間。そう考えると、どう考えてもフルフラットシ

ートのビジネスクラスで行くのが正解であることは疑う余地ありません。「よし、今回はビジネス一択だ」と思い予約サイトに行ってみると、エコノミークラスとの金額の差が片道約20万円。払えるけど…1時間あたり2万円？気が付けばまた私はエコノミークラスのエアチケットを手にしていました。結局のところ、私は足るを知っているつもりになっているだけのただの貧乏性だったという訳です。



Akira Saito

奈川
出身。平成15年税理士
登録（東京税理士会
支部）。齋藤明税理士
事務所所長・日本税務
会経営部門常任委員
グは「波乗り税理士
に乘れるか？」<http://blog.livedoor.jp/saiki555/>

【近況】平日の明日、天気予報は雨。それなのに、私は愛犬を連れてキャンプに行こうとしております。それは別にヤケクサになっている訳ではなく、前から行ききたかったから。臆病な愛犬・太郎は、私と一緒に楽しんでくれるでしょうか？

